

「信じることは愛すること」(2024.3.17)

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。

わたしがあなたがたを愛したように、

あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

先日 YOUTUBE を観ていたら、「これが青春だ」が歌と映像と共に流れてきた。高校生の頃、このテレビ番組に夢中になり、勇気を出して勉学に燃え、もしかしたら教師に憧れたのかもしれない。竜雷太が演ずる大岩先生の訓示が印象的だ。「人を信じない奴を俺は嫌いだ。人に騙されるのを恐れるあまり、人を信じない奴を俺は嫌いだ！そんなのは若者の“なまえ”に恥じる。信じて騙された、何が恥ずかしい、少しも恥じるべきところなどない！恥ずべきは、最初から信じない奴、信じようとも思わない奴、努力しない奴、そういう奴だ！」劣等生ばかりのクラス担任になった大岩先生は、サッカーを通じて、とことん生徒を信じ、その可能性を信じながら、泥んこになり、心の触れ合いを図っていく。

誰かに信じられている時、テレビの高校生たちのように私達も勇気が出て、そうありたいと努めるのではないのでしょうか。イエス様は上掲のように私たちに新しい掟を与えられた。大岩先生の訓示の影響だろうか、「互いに愛し合いなさい」という掟が「互いに信じ合いなさい」と聞こえてきた。そうか、信じるということが愛することなのだ！私達は互いに弱さを抱え、助けを必要としている。だが、私たちはキリストの体であり、一人ひとりはその部分である。キリストを宿し、聖霊の場とされている。それゆえ可能性に満ちている。そのことを互いが信じ合うこと、それが互いを愛し合うことなのだ、と思う。



先日、第2回教会懇談会が開かれ、新年度方針「洗礼・聖餐の恵みに立つ教会」が提案された。洗礼・聖餐は私の内にキリストが現臨されるという恵みであり、かつしるしである。この信仰が私たちを慰め励まし、救いの恵み(罪の赦し・永遠の命)を確信させるからである。その関連聖句を「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」(ガラテヤ 2:20)とした。イエス様の御言葉が響いてくる。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」(ヨハネ 20:27)御言葉を信じることはイエス様を愛することであり、信仰共同体としての教会の土台である。